

地方自治体といかに 連携するか

～地域振興への次なる取組み～

連携のポイント

—地域振興施設を事例に（その4）

まち実践社

代表 村橋 保春

経済と道徳

2冊の本を紹介したい。

1冊目は『代表的日本人』、明治期に宗教家内村鑑三が西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮を取り上げ、思考や行動を通じて日本人のあり方、人としてとるべき道を示したものである。ケネディ元米国大統領が尊敬する日本人として上杉鷹山を取り上げたのも同書によるといわれる。

この上杉鷹山の件で経済を道徳と併せて考えることの大切さを述べている。富は常に徳の結果であるとする東洋思想を示し、経済的豊かさのみを目標として行動することを否定する。利他的な欲求の満足に終始する経済の積み重ねが格差社会の一因となっている。人生を支える大局的な道徳と一体となった経済活動が真に人々を豊かにする。疲弊しきつた藩財政を甦らせ領民から信頼された鷹山は、現代社会においても改めて強く求められるリーダー像である。

ノーベル経済学賞を受賞したロバート・J・シラーは『それでも金融はすばらしい』を著し、

広く世の中から敵視される金融資本主義を多面的な知識を駆使して擁護する。金融とは目標構造の科学、ある一群の目標実現に向けた経済的取決めの構築と、その目標実現に必要な資産の管理を行う活動としている。道徳につながる概念はなく、知識のポリウム感^{アノモイ}は伝わってくるものの心に響かない。富める者が富めば貧しい者にも自然に富が滴り落ち、結果多くの人々が富むこととなるとするトリクルダウン理論にお互いを思いやる心の温かさを感じることはない。

人々にとってほんとうの豊かさとは何か、そのために何をしなければならぬかを考えさせる1冊である。

多元セクターとしての信用組合

2冊目は近著である。

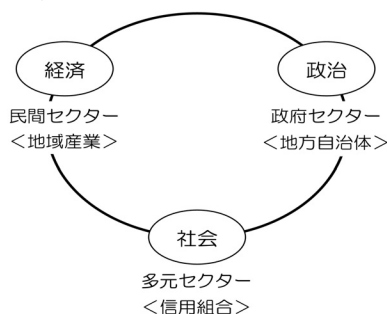
ヘンリー・ミンツバークが著

した『私たちはどこまで資本主義に従うのか』（原題：Rebalancing Society）は、原題のとおり現代社会の課題の原因をバランス欠如に見出し、いかに変革していくかを論じたものである。ミンツバークは現場と実践を重視した異色の経営学者で、独自のマネジメント論を展開しており、経営学にとどまらず多くの社会事象に対し積極的に発言している。

同書は社会で重要なセクターとして政府セクター（政治）と民間セクター（経済）を取り上げ、共産主義が崩壊した理由は政府セクターに多くの権力が集中し、バランスが崩れたことを原因とする。共産主義崩壊後は資本主義の独り勝ちとなったが、民間セクターの主体である企業に過度に利益が集中し、市場経済が企業のための社会に変化した。共産主義の場合とは反対に民間セクターの利益集中が激しく、このアンバランスが社会問題を生み出している。資本主義の暴走を食い止めバランス

地方自治体といかに連携するか

図 多元セクターとしての信用組合



『私たちはどこまで資本主義に従うのか』掲載図を編集

の良い社会とするため、ミンツバーグはこうした二律対立的構造から第三のセクターから成る構成で社会のバランスを整備し直すことが重要と唱える。

第三のセクターは社会的存在であり、強力なコミュニケーションで舞台に形成される多元セクターと位置付ける。多元セクターを構成するのは政府や投資家によって所有されないすべての団体をいう。特定のメンバーによって所有される団体や誰によっても所有されない団体もある。

信用組合はじめ協同組合は多元セクターに位置付けられる。多元セクターにより社会がバラ

バラした考えに基づき地域連携に関わる信用組合のポジションは、地方自治体や地域産業の補助的サポーターから地方自治体や地域産業と対等な役割を担う主体的マネージャーに変わる。地方自治体から相談を受け

サポートからマネジメントへ

ンスを取り戻すためには、多元セクターが現状に抗議する社会運動(ソーシヤル・ムーブメント)と現状の改善に取り組む社会事業(ソーシヤル・イニシアチブ)にしっかりと関わる必要がある。信用組合にはこうした役割が求められ、バランスが崩れた現代においてその実施が重要であることを同書は強調している。図式化すると図のとおりとなる。

信用組合は金融事業を行う協同組合であり、相互扶助・自立共助を組織理念としている。経済と道徳を合わせ多元セクターとして活動し、バランスのとれた社会を再構築するうえで重要な役割を果たす。

こうした考えに基づき地域連携に関わる信用組合のポジションは、地方自治体や地域産業の補助的サポーターから地方自治体や地域産業と対等な役割を担う主体的マネージャーに変わる。地方自治体から相談を受け

たとき民間ノウハウを提供する受動的な支援ではなく、地域産業から相談を受けたとき官民相互の問題意識の調整一体化を推進するばかりでもなく、信用組合自らが事業理念と目標、戦略と方策を打ち立てりリードすることが求められる場面が生まれる。

本稿で事例に挙げる地域振興施設の場合には、信用組合の役割はどのように展開するか。主体的マネージャーの役割を担うためには、事業対象となるマーケットを事業機会獲得の観点から調査分析し、事業化推進に積極的に取り組まなければならない。評論家・研究者・分析官から実践者・挑戦者・開拓者にならなければならない。もちろん命知らずの冒険家、冷静さを欠く勝負師ではない。魅力を増す商品構成、お客様に喜ばれる接客オペレーション、居心地のいい施設環境など、情報を積極的に入手し、事業計画に反映し、関係者の意識と意欲を束ねる。金融機関として培ったリスクに

時代の変化に先んじて変化

対する嗅覚と回避のための経験実績を地方自治体に提供する。ことも忘れてはならない。

高度成長期のような量的変化ではなく、現代は大きな質的変化が進んでいる。共産主義と競い合い勝ち残った資本主義も本質そのものが問われる時代となっている。

変化が早く、変化に応じた対応が難しい場合どのようにしたらよいか。先んじて変化し、時代が追いかけてくるのを待つ。時代の変化がたどり着く位置が先んじて変化し待ち受ける位置と少し異なっていたとしても迎えるほうが対応しやすい。時代を読み、多元セクターとして役割を果たすためには、常に積極的かつ迅速に取り組み、経験を重ねることで能力を高めることが大切である。あくなき挑戦の繰返しが必要といえる。大変な時代であるが、やりがい満ちた時代である。